京城新聞

妄言妄評（六）

栗嶽生

▲小早川隆景　文祿の役、加藤、小西、黑田等皆能く戰ひ、敵をして恐れしめたり、獨り隆景拔群ならずと雖も、余は何となく隆景を快とするを禁ずる能はず、行長平壤に於て明軍と戰ひ、明將如松不意に大軍を以て襲ふ、行長爲に支ゆる能はず敗走す、長政之を聞き憤然として行長を迎へ殿して京城に來る、朝鮮兵之を聞きて四方に蜂起して明軍に應す、明將如松開城を陷落し、明軍終に四道を占領す、京城留守の石田三成、增田長盛、大谷吉隆等相議して諸將の兵を京城に集む、明軍は連戰連勝によりて我を輕んずるに至れり、我兵の京城を棄て[illegible]如松之を侮り輕騎を以て之を追擊せんとせり、時に小早川隆景開城より還て京城に赴かんとす、明軍の先鋒に邂逅し擊て之れを潰走せしめたり、已にして如松十餘萬の兵を以て攻め來る、隆景衆を勵まして之を碧蹄館に要擊す、一以て百に當るの槪あり、流石の明將も避易す、時に明將楊元來援す、如松大に力を得て復た進擊し來る、隆景奮勇して大に之を擊破す、此際如松馬より落つ、隆景の兵之を刺さんとす、其時飛騎其兵に適中して倒る、此際に如松漸く虎口を脫することを得たり、隆景は明兵の逃るを追擊して臨津江に至る、明兵江に擠し、江水之が爲に流れを止む、如松等痛哭夜を徹して遁逃せり、然り之れ唯明軍を破れるのみ、然れども勝ち誇れる十倍の明軍に對しての攻擊なり、而も遁るを追擊して再び來攻すること能はざらしめたるの勇氣、兵略共に凡を拔く、普通の將ならしめば、唯防衞の一點に傾かん、勢を轉じて攻勢を取り、敵に肉薄して敵將を馬より顚倒せしむる迄に突擊したるなり、隆景の此擧は無謀の勇たる如くして却て遠謀の存するものあり、一擧にして之を斥けずんば京城の守備に大關係あらんとす、一命を賭して奮戰したるなり京城の諸將等をして、後顧の憂なく戰略を決せしめんとしたる獻身的の戰ひなり、余が特に隆景を快とせるもの獨り戰鬪に强勇なりしのみならんや、其崇高なる意氣、壯烈なる高義に深く感ずるが爲なり、否耶、

▲韓人の特性　文祿の役、日本軍が韓土に入るや、最初は韓兵も之を迎へて戰ひしが其敵せざるを見るや、皆屛息して日本軍に從ふ、浮田秀家が京城に屯する頃は八道の人民皆我に服歸したり、之れ所謂面從なり明將如松が連戰連勝の勢を以て、而も十有餘萬の兵を提げて來るや、今迄日本軍に服歸したる韓兵韓民は擧て所在蜂起し、明軍に投じて日本軍に刄を向けたり、之れ所謂腹背なり、嗚呼歷史は繰返す、爾來數百年韓人の特性は尙は發揮せられつゝあるに非ざる乎、懷柔論者以て如何となす、

●農商工部の注意要件（續）（各道觀察使に對する）

鑛務に關する事項

一、鑛業又は砂鑛業の許可を與へたるものあるときは其の都度許可區域の圖面寫を添へ通知旁々郡守に訓令し觀察使に訓令しつゝあるを以て許可區域並に許可を受けたる人名は郡並に觀察道に於て明瞭なる次第なるが地方に依りては監督不行屆を奇貨とし許可を受けず若は許可を受けたりと詐稱して密掘を爲しつゝある者ある趣に聞知せり此等は法令違反に付地方官憲に於ては見當り次第嚴重に禁止する方針に依り相當の措置ありたし

二、砂金採取の許可を受けたる者にして地表を亂掘し土地所有者又は關係人に損害を及ぼし補償を爲さゞるものあることを聞けり採取事業のため地表を使用する場合は豫め土地所有者又は關係人に交涉して其の許可を得相當の借地料又は代價を支拂はして採取に着手すべきは當然なるに拘らず單に採取の許可を得たるのみを以て直ちに地表發掘の權利を得たるものゝ如く誤解し或は故意に地表を亂掘し地方人民に迷惑を及ぼすものありと云ふ此等の傾向ある場合には臨機事業者に訓諭ありたし

三、鑛業及び砂鑛に付ては內外の形勢に鑑み外國の資本技術を輸入し速に富源を開發するの國是に依り光武十年九月十五日新に鑛業法及砂鑛採取法を施行して外國人の斯業に對する從前の業を解き通則として內外人中最先に出願したるものに許可を與ふることゝ爲したるを以て外國人中に既に許可を得たる者多數あり又將來は益々增加すべく從て企業の曉地方人民と直接の交涉事件を頻出すべきを以て地方人民は勿論內國官憲に於ても內外人の別に依り利便、保護を與ふる上に於て厚薄親疎の隔を爲さず外國人をも安心して企業を遂行するを得せしめ以て斯業の發達を圖り國運の伸脹を期することに盡力あらんことを望む

水產に關する事項

一、爆發物を使用し魚類を捕獲することは水產蕃殖を害し且一般漁業上にも至大の妨碍を與ふるものに付沿海理事廳に於ては何れも廳令を以て之を嚴禁したりと雖も日本漁業者中往々其の禁止を犯し又遊漁者中にも違犯行爲をなすものなしとせざるが如き實情あるにより今後一層其の取締を勵行し禁止の目的を達せんに勉められん事を望む

二、日本漁業者の風習と韓人の習俗とは自ら異なる所あるは止むを得ざるべきも卑野猥褻の擧動を以て韓人間に臨み殊に言語の不通に乘じて不謹愼の行爲を敢てするが如きは最も地方の感情を害し延て漁業の安全を破るに至ること尠からず尙日本漁業者相互間にも風俗を亂し或は賭博に耽り通漁の目的を失ふが如き行動をなすもの往々存するの實情あるにより此等風儀の矯正に勉められん事を望む

新刊紹介

●帝國圖書館年報摘要　帝國圖書館の編纂に係るもの四十年中に於ける寄贈書籍及新聞雜誌の目錄並に同年度中の閱覽人の數等を表はしたるもの也

●刀劍　麻布霞町花月庵より發行せるもの愛劍家の以て參考すべき雜誌なり

●東京經濟雜誌　本號には「河津博士の保護貿易論を讀む」「米國貿易の消長」「韓國居留民團長の官選」等は重要の記事なり殊に民長官撰問題は言々肯綮に當り字々要諦を穿てるもの大に讀むべしとなり（一千四百五十二號十二錢東京々橋區彌左衞門町東京經濟雜誌社發行）

●日本經濟新誌　「豫算と現金」「競馬を禁止すべし」「本邦商人の通弊」等は本號の好讀物なり（第三卷第九號十三錢東京々橋區南紺屋町日本經濟新誌社發行）

●窒素問題に關する批評　東京麴町區智利硝石普及會日本本部にて編纂せるもの內容は下の二編より成れり「窒素缺乏に對する豫防策」「大氣窒素固定法の現狀」

小說　新不如歸（八十六）

篠原嶺葉著

夏も何時しか過ぎて秋の半頭であつた、青山共同墓地に葬られたる百合子の墓に、香を焚きて合掌する陸軍少佐がある、やゝ暫し間は瞑目して居たが、やがて目を開くと共に淚ははら〳〵と落ちた、そして生たる人に物言ふ如く、

「呀々濟まなかつた、手こそ下さんけれどお前を殺したのは現在兄の此の義祐が殺したも同じ事だ、私が國家のためとは云ひながら、敵將に地圖を賣つたばかりに足柄に見付られて秘密を握られ、それがために其の秘密を笠に被て、無法な事を云つてお前を苦しめたさうだ、それやこれやが原因となつて、到頭不治の病氣を起して、こんな情けない姿になつたさうだが、皆な此兄が惡かつた、嘸ぞでない兄を恨むであらうが、これ百合子、こ、この通り兄が手を合せて謝罪る、どうぞ勘、々忍して下れ、勘忍して、その代りには、敵の大軍を破つて亡くなられた父上の修羅の妄執を晴した上に、こ、これを見て下れ、金鵄勳章功三級を賜つて、陸軍少佐に昇進したぞ。」と、胸に輝かしたる金鵄勳章を、碑に向つて捧げんとする時、他の步み來る跫音の聞ゆるに、淚の顏見らるゝも由なき事と、急ぎ墓前を去つて三間ばかり隔つて煉瓦の垣を築きたる墓地の蔭に身を潛ばせた、彼の跫音は漸次に近いて、やがては不思議にも百合子の墓地に入つて手に携へた、白き菊の花を手向て後、何事も云はず西脇百合子之墓と刻たる石碑を、凝乎と瞶めて居たが淚は見る間にハラハラと頰を傳つて今手向たる菊花の上に落て露を置くのである、個は別人ならず尾花敏男であつた。

寸時すると、彼男は懷中より一通の書面を出し、溢れ出る淚を靜に拂ひて、「百合さん、私は敏男だよ、お前の夫の敏男だよ、何故お前は私を殘して死だのだ、何故私の不在中に死んだのだ……奈何しても病氣のために死なねばならん生命なら、なぜ私の歸つて來るまで待つて居ては下れなかつた、無、無情の繼母は百合さんに、あられもない汚名を附けて離緣爲たさうだが、私、私は百合さんが、そうんな女でない事は能く知つてるから、決して信じは爲なかつた、すぐに歸つて貰はうと思つて、百合さんの家へ駈付けて見りや、病氣になつて何處へ轉地療養した後のことで、其行先を聞いて行かうと思やあ、阿母樣からの口留とかで聞かしては下さらず、わ、わたしや、あんまり悲しうて、他人にこそ云はないが、二晩も三晩も泣、泣き明した、この事は濟子さんに賴むだ書面の中へくはしく書て置いたから、百合さんも定めて讀むで呉れたであらう……どうかして一度逢つて、くはしい事を聞きもしたり話も爲たいと、百合さんの轉地先を聞合はした見たけれども、どちらに行つたのだか少しも樣子は知れないし、彼是する中に出征する事になつたから、もう一生百合さんの顏を見る事は能ないかと、ろ、そればかりが何より悲しくて出發する前の晩は、ひよッと百合さんが轉地先から歸つて來ては居るまいかと、當にもならぬ事を便りにして、百合さんの家の戶外に立つて家の樣子を窺つたが然う云ふ樣子も聞えなかつたから、余所ながら泣いて別れを告げて其の翌朝出發したが、思ひも依らん大磯で顏見た時は、百合さん同僚の手前があつて、淚こそ出さなかつたが、私、私お嬉しいやら情けないやらで、こ、この胸は張裂けるやうな感がした、こ、こんな所へ來て居ると知つたなら每日でも通つて、病氣の看護も爲てやつたり、互の胸の中も語り盡されたもの、呀々殘念な事爲たと、名古屋の停車場へ着くまで、百合さんの事ばかり思ひ續けて途中の事なんか些とも知らなかつた、」云ひつゝ淚をそッと拭ふた。

優柔主義を駁す

伊藤公の談話に就て

伊藤公は對韓政策に就て日本の新聞記者は漸進主義に陷るもの多しと喝破せり、酒間の豪語なりと雖も、正しく公が胸中に蘊蓄せる所を漏らしたるものなり、公は更に附言して曰く、日本の新聞記者は米國主義に傾けり、乃公をして新聞記者たらしめば英國主義を採るべしと、是れ最も公の政策を露骨に言説したるものなり、公と雖も最初に於ては迅速に効蹟を擧げんと逸りたり、一度着手するや豫想の如くならざるのみならず、往々韓人より乘ぜられ、意の如くならざるに屢々煩悶して、餘儀なく漸進主義を採るに至れるなり、[illegible]公が韓人と誤解したる爲に方針を誤れるが爲ならん乎、然るに今に於て英國主義云々を以て適辭となす、余輩は公の餘りに卑怯なるを憫笑せずんばあらず、公が余輩新聞記者の對韓政策を目して拙速主義なりと云はば、余輩は公の對韓政策を以て優柔不斷主義と云ふの適切なるを覺ゆ、更に余輩は附言して曰ふ、公の政策は時と場合を辨せざる朦朧主義と云ふも不可なからん乎、時と場合に於ては漸進主義も可なり、優柔不斷も寛恕すべきなれども、極東外交の形勢は何時何如なる變化を來たすべきやも知る可らざる今日の場合、如何なる關係が帝國の對韓策に纒綿し來り、意外の支障を受けざるとも限らざる今の時に於ては、到底伊藤公一流の優柔不斷は斷じて寛恕すべからず、元來公は比較的圓滿にして常識に富める政治家なれども、常に優柔不斷の爲に機を逸すること多し、維新以來公の關係したる外交案件も尠からずと雖も、美事に之を徹底したるものなきに非ずや、公が政治家として完功せざる所以のものは職として優柔不斷なるに由る、機會は容易に再び來らず、公たるもの徒に新聞記者を拙速抔と評するよりは、能く列國の極東に對する形勢を看破して機會を逸せず以て帝國の對韓策を決定すべきなり、酒間豪語を放て乃公の手腕云々を喋々する呑氣なる秋にあらざるなり、

由來公は酒を藉て英雄を氣取るの僻あり、豐太閤が文祿の役を評して徒に韓國民の反抗を招きたるに過ぎずとなす、何ぞ其意の隔れるの甚だしきや、乃公の政策は豐太閤の上にありと云はぬ斗りの語氣、茲に至りては自惚も亦極點ならずや、豐太閤文祿の役は、啻に對韓策を決定するに止らず、併て對支那策を決定せんが爲なり、豐太閤にして壽を保ち若しくは徳川家康をして豐公の志を繼がしめば、彼の當時に於て對淸及對韓の策は既に決定して今日の如く面倒を見ざるなり、如何に自己の政策を辨護せんとするも、豐公の施設を以て韓人の反抗を招きたるに過ぎずと評し去るが如きは余りに淺慮なり、公たるもの斯る放語を弄し自己を高く標致して得意を裝ふよりも、須らく其特有の優柔不斷を捨てゝ、毅然たる覺悟を以て對韓政策を決すべきなり、然らざれば他の對韓策を評するの資格あらざるなり

漢城便り

▲大韓毎日申報社内に籠城したる梁起鐸も昨日愈英總領事の手を經て韓政府に引渡され申候彼の事件は事件其物が單純なるに不拘大に世人を噪がせ記者通信員を忙がしめ申候彼の事件の裏底に何物の藏せられ居候やは余輩の知るところに無之候得共只引渡請求の手續に慥かに錯誤のありしことは明瞭なる事實に御座候

▲明治廿六年の昔[illegible]港内に碇泊したる帝國軍艦浪速號へ一夜邦人大塚某なるもの泳ぎ來つて助を求め其當直士官に向つて彼の陳述せし處によれば彼は殺人罪の被告にして監獄より脱し來りたるものゝ由に候夜も更けたればとて士官は彼を艦内に留め置候

▲明くれば翌日未決囚大塚が浪速號に投じたりとの事を知りたるホノルヽ警視總監は自ら浪速を訪ひ艦長に向つて大塚の引渡を請求致候當時ハワイの米人等は王朝を倒し假共和政府を建設して得意の絶頂に達し眼中また帝國軍艦無かりし程に有之候

▲時の浪速の艦長は東郷大佐にして今の東郷大提督に有之候東郷艦長は警視總監の請求に答て曰く「大塚は今治外法權の行はるゝ帝國軍艦浪速艦内に在り、貴下にして彼の引渡しを得んとせば宜敷國際法規に叶たる手續を踏で來れ」と、警視總監は自家の粗忽を陳謝致候而して間も無くハワイ政府は合法の手續を爲して問題を解決致候

▲右と同樣なる事件は十數年前ワシントンに於ける我公使館に於て起り申候事は街路に於て喧嘩を爲し相手方に傷けたる一黒人が巡査の追跡を免れんと無意識に帝國公使館の敷地柵内へ逃込みたるに起り申候巡査は黑人を追ふて柵内へ入り彼を逮捕せんと致候我公使は米國巡査の所爲を以て治外法權を蹂躙するものと爲し直ちに出來事を國務省に通告致候國務省は合法の手續を以て黑人を帝國公使館より受取り同時に巡査に嚴罰を加へて帝國に向つて謝罪の意を表したる事有之候

▲右の二件は梁起鐸事件の先例とも見るべきものならんかさも存候聞く埃及のカイロ市に於ては以上の如き出來事は通例一日二三件を下らざるを以て何人もあまりソレ等を問題とせざる由に有之候

東京電報

韓太子に直訴

昨日午後韓國皇太子岐阜に御滯在中怪しき韓人來り請願の節ありとて太子の宿所を訪ふなど擧動不穩なるより警察にて取調べしに高東國(三十)と云ふものにて渡日後所持金盡きて此の始末に及びしなりと云ふ

▲拓殖法の發布期

東洋拓殖會社に關する法律は二十七八日頃發表せらるべし

▲英佛獨の特許條約

清韓兩國に於ける意匠商標特許版權等の保護條約は米國同樣英佛獨三國とも漸次締結さるべしと確聞す(以上二十一日發)

雜報

●太皇帝の誕辰

昨日は太皇帝の萬壽節に相當せしかば李總理以下各大臣は德壽宮に參内し祝詞を述べ市民は一般に國旗を揭げ祝意を表したり

●岐阜に於ける韓太子

韓太子統監一行は十九日宇治を發し午後零時岐阜に着せらる知事市長學校生徒を以て埋められ歡迎盛なり而して午後五時より長良川に鵜飼御覽あり太子の御喜び極りなく鵜飼は長良川の御獵場にて行はれ太子は獲せられたる鮎の内より二百尾を我兩陛下に獻上の爲めに東京へ送られたり廿日午前十時太子は御旅館を出でられ物産館に名和昆虫研究所武德殿に成らせられたる後統監旅館萬松館に於て午餐あり御觀遊の後に御旅館に歸られたり

●伊藤統監談話

十五日舞子萬龜樓に韓太子に隨行して宿泊中なる伊藤公は例に依りウヰスキーを飲で夜を更し既に夜半十二時を報ずる時突然服部知事の部屋に侵入し來り再びウヰスキーを呼で知事を相手に且つ飲み且つ談ずること暫ありて後參集せる阪神の新聞記者を集め開口一番元老を片ッ端より罵倒し次で眞面目なる談話に移つて曰く「財政問題は重大なる問題にして然かも一人も其の内情に通ずる者無し然るに局外者にして稍もすれば則ち曰く軍備を縮少すべしと抑も軍備は内外の國勢に鑑みざる可からずして一概に或は縮少し或は擴張すべきものに非ず尤も軍費を節約せよとならば未だ他に方法の講ずべきもの無くんば非ず然るに財政問題と軍備とを直ちに混同して軍備縮少を唱ふるが如きは寧ろ愚の極と言ふべく若し乃公を以てすれば軍費節約に關しては別に成案無きに非ず次に民團長の選擧に關して世間に論議あるもの如し然れども之を以て民選と爲さんには冗員を使用するの弊あるのみならず往々にして如何はしき人物を使用する事あるは從來の實蹟に見る所なり即ち官選の必要ある所以こゝに存す然れば此の場合一部の反對を賭しても官選を遂行する考へなり」斯て伊藤公は言を新聞記者の棚下しに移して曰く「日本の新聞記者は餘りに拙速主義にして米國主義に陥れる觀なきに非ず若し乃公をして新聞記者たらしめんか正に英國主義となるべし」などゝ氣焰を吐き又樞密院議長に就ては「山縣より勸誘ありたれども韓國の統治は其の責任に於て更に重大なり乃公の決心は列國環視の間に必ずやこれを成功し見せんと欲するにあり曾禰に任じても可なれども未だ若いので不安心の所あり」などゝ曾禰副統監を子供扱ひにせるは最も振へり

●梁起鐸の引渡(電通所報)

英國總領事は昨日午前十一時遂に無條件にて梁起鐸を引渡せり梁が大韓醫院に入院せしめらるゝの際英國マーナム氏所有大韓每日申報社に逃げ入りたるは去る十一日夕刻の事なるが英國總領事が其引渡を拒絶したる爲め爾來十日間同新聞社内に抑留せられたりしが梁起鐸は引受後直に大韓醫院に送せられたり同人の友人マーナム、ベセル諸氏並に英國領事館員等が同人の病氣重大に陷りし事を吹聽したるに係はらず本朝韓國官憲が同人の引渡しを受けたる際同行の醫師をして念の爲め診察せしめんとしたるに引渡に立會したる英國總領事は其必要なき事を主張したるに依り診察を爲すに至らざりし梁起鐸の健康は毫も平生と異なる事なく病人たるの樣子なきのみならず自ら他人の助をも借らず人車に乘り又は病院の二階を昇降する等殆んど健康躰の人に異ならざりしと云ふ、尤も同人の容躰に就ては大韓醫院に移りたる上篤と佐藤博士の診察も受け其結果により公判開廷の時日を決定せらるゝ筈なり、今日に至りては英國總領事が已に梁起鐸が刑事被告人たるの事實並に其公判の時日に就き公然の通知を受けながら同人の即時引渡を拒絶したるは何等理由なかりし事明瞭となれり此の事件は當初より簡單明瞭にして韓英條約第三條第九項には韓國々法を犯したる韓國臣民にして英國人の邸内に入り込みたる時は英國官憲は韓國官憲の要求に應じ其引渡し手續をなすべしとあれば本回の事件の如き場合に當り英國總領事の取るべき處置は明瞭にして一點の疑を容るべき餘地なきに係はらず同領事は如何なる考慮ありて此簡單なる地方問題より外交上の交渉を惹起したるかは何人も解するに苦しむ所なり、或は英國總領事が梁の引渡しに就き條件を提出したりとの風説あれども信んずべき方面にて確めたる所に依れば何等條件の提出せられたる事なく若し又提出せられたりとするも日本官憲は斷然之に應ぜざりし筈なり、英國總領事の了解すべからざる這般の態度に就ては日韓人の憤激せる者少なからず同領事が其平地に波瀾を起したる處置に對し宜しく責任を取らざるべからずと云へ居れり

●舊慣調査の進捗

民法制定の準備として法典調査局に於て調査中なる韓國舊慣に關しては曾て報導したる處なるが本年中に京畿道以東の各地を終了する豫定にて既に公州(忠南)仁川、開城(京畿)同永(忠北)大邱、慶州(慶北)群山(全北)光州(全南)の各地を調査し近々川崎事務官は濟州島へ渡邊事務官は蔚山へ下森事務官は淸州へ何れも出發し明年中に全國の調査を遂ぐる筈なりと云ふ

●宮内府儀式に就て

從來宮內府にては一の儀式ある每に文武官之に參列し事仰々しく且つ事務の澁滯を來すの嫌ありしに今般此惡習を除かんが爲め特に皇帝の御思召により宮內大臣は左の通り府達せり

當此維新の時に當り儀式と事務と宜しく分別有るべし從今以後凡儀式には差備官を特召せられたる者を除くの外百官の參列は停止すべき旨奉承せり

●警視總監の後任に就て

丸山警視總監が今回某縣知事に轉任する事は東電の報ずる如くにして遠からず事實となりて現はるべく其の後任者に關して聞く處によれば現今の狀態にては漢城府の警察事務のために警視廳を存して警視總監及び副監を置くの必要なく水原なる京畿觀察府を京城に移して漢城府の警察事務をも管轄せしむるも可なり又漢城府に警察部を置くも差閊なし等の理あるが故に警視廳存廢の問題は丸山總監の轉任と共に起るべきを以て徐ろに其の研究を遂げて後任者を決定するため當分は松井警務局長をして兼任せしむる事となるべしとの説あり暫く記して後日に徵せん

●新任郡守の不人望

星州郡守白南稜は地方官制改正後觀察使の推選により初めて任命せられたるものなるが同郡守は着任の際郡吏に對し出來得る丈けの虐壓をなし郡主事始め使令官奴に至る迄倭路驛へ妓生は一同星州倭路の中間迄出迎ふべしとの訓令を發し當日は八人橋に乘じて着任したるため地方官民の不人望を來したりと云ふ

●神尾典獄の罰俸

梁起鐸が國債報償金消費事件にて京城監獄署に收禁中病氣の爲め大韓醫院に診斷の爲め護送する際自由に出監せしめたるに直ちに大韓每日申報社に逃込みたるに就て典獄神尾虎之助氏は職務怠慢の廉に依り一ヶ月の罰俸に處せられ又看守長國分萬次郎氏は二ヶ月の罰俸に處せられたり

●玄暎運裁判所に廻さる

久しく警視廳に拘禁せられ取調べを受けつゝありし玄暎運は愈々詐僞取財被告人として十九日地方裁判所に引渡され目下同檢事の取調を受けつゝあれば不日訴訟を提起せらるべしと云ふ

●警備電線開通

議政府抱川間は八月十八日公州定山間は八月四日より開通し居れり

●宮内府事務打合

宮內府內各官廳主務官は自今每週水曜日午後より大臣官房に參集して執務上の打合を爲す事となれり

●平壤委員部の美擧

愛國婦人會平壤委員部に於ては客月委員會を開き管內傷病兵並に暴徒討伐に從事せる軍隊に對し慰問袋寄贈の件を議決したるが爾來委員諸氏が熱誠なる勸誘と會員及有志諸君の厚き同情とに依り意外の盛況を呈し豫定の袋數千五百にては不足を告ぐるに至りたるを以て更に數百袋を調製したるに締切期日迄には實に千八百有余袋の多數を醵集し豫期以上の好成蹟を收め平安南北黃海の各道に駐屯する步兵第廿六旅團に對し夫々寄贈を了したり

●仁川會議所豫算

仁川會議所四十一年度豫算は七千七百八十餘圓にして內今日迄課金納入濟の分は上半期三千五百圓下半期八年中旬迄三千百圓にて差引一千二百餘圓の未納額を生ぜりと同會議所は九月末迄四十一年度豫算の編制を終る豫定なりと

●第二回有志會流會

一昨日仁川民役所樓上に於て催さるゝ筈なりし第二回有志會は會員の都合上流會となれり

●築港期成會決算如何

三十九年中組織されたる仁川築港期成會は其後有耶無耶の內に解散同樣の姿となり同會基本金壹千三百餘圓は未だ委員長の手より決算報告だになす所なきを以て其醵金者等は非常に憤慨し居れるが今回成立したる仁川有志會と合同して其の基本金をも有志會に引繼がば一擧兩得の策なりといふものあり何れにしても期成會委員等は速かに右基本金の決算をなす所ありて可ならん尙目下在仁中なる委員の氏名左の如し

委員長加來榮太郎、委員新原修一郎、奥田貞治郎、稻田勝彥、足立瀧次郎の諸氏

●綿糸の現況

銀塊相場の下落は本邦綿糸界に大影響を及ぼし一時現物沸底の爲高價の氣配を保ち居たる綿糸は本月中旬より徐々弱氣を呈し來り尙下落せんとする情勢なるが京仁に於ける綿糸界も亦聊か本邦下落の影響を受け昨今二三十錢方の下落を示し來れるも目下朝鮮盆を前に控ね茲二十日間は韓人向需用の激增する時なるを以て氣配の恢復するを見るは近きにあるべしと云ふ

●大每支局の移轉

大阪每日新聞社京城支局は從來南山町一丁目に設置せられありしが今般旭町一丁目に移轉したり

●仁川の邦人數

仁川八月中旬現在の人口は一萬一千六百五十八名なりといふ

●南平郡守拘引

南平郡守李俊奎は昨年就任以來或は結稅を騙取し或は收賄に依りて土地の證明を詐り或は市場稅を不當に徵收し或は收賄して庖肆營業を許可し或は學田の收入を私したる等不正行爲夥しく今回光州警察署に拘引されたりと云ふ

●朝鮮日日の解停

豫て民長官撰問題に關し發行停止を蒙りたる朝鮮日々新聞は昨日解停せられたり

●梅博士の歸京

京義鐵道沿線視察中なりし法典調査局顧問梅法學博士は一昨夜南大門着列車にて歸京したるが今回來韓の要務たりし民、訴訟法は委員會の審議を經て確定案になりしを以て本月廿六日頃出發歸朝する筈なりと云ふ

公人私人

▲鹽谷時敏(文科大學講師)一昨日歸朝

▲森元俊三(水原林業事務所長)一昨日歸[illegible]

▲遠山熙(法學士)一昨日來京天眞樓

▲梅謙次郎(法學博士)平壤地方視察より昨日歸京天眞樓

●近事片々

▲嚴妃は皇太子に對顏と觀光を兼[illegible]初旬日本に渡航せらるべしとは事實なり[illegible]

▲太皇帝の日本行は屢々噂せられて立[illegible]へとなり局面轉回嚴妃の渡航となりにけ[illegible]

▲日本に於て嚴妃の渡航によりて日韓[illegible]關係一層親善たらんと期待せらるゝ模[illegible]

▲是も亦伊藤公の手柄なりとて乃公彌[illegible]鼻を高くするならんと世人は頻に評し居[illegible]

▲一進會は不相變內閣總辭職を根氣よ[illegible]勸告し居るとの噂あり是れ即ち活動るる[illegible]

▲宮相閔氏に向ても辭職を勸告せりと[illegible]事實ならば辭職勸告の理由は奈邊にある[illegible]

▲內閣總辭職に對する理由は如何一進[illegible]と政見を異にする爲か將た別に理由ある[illegible]

▲先頃迄部分攻擊の噂ありしが何時[illegible]間に總辭職勸告と變化せしや萬事不可解[illegible]

▲總辭職の上は一進會が內閣を組織す[illegible]と云ふ意味乎只例の如き目的なるべき乎[illegible]

▲一說には閔宮相辭職して侍從院卿尹[illegible]榮後任たるべしと失張例の巷說なりや否[illegible]

▲更迭事實とすれば閔氏辭職の理由は[illegible]なる乎日本人側の評判は大分良好なりし[illegible]

▲頃者問題となりし梁起鐸も愈々昨日[illegible]渡されて大韓醫院に送らるゝ之で問題解決[illegible]

▲大韓每日申報社より出でゝ車に乘れ[illegible]渠梁起鐸や顏色蒼然変体凄然たるの觀あ[illegible]

▲梁起鐸も少しの間違ひより世界に其[illegible]を知られたり起鐸亦以て榮とするに足る[illegible]

▲ハルバートもベッセルも韓國の爲に[illegible]を世界に知られたる組なり世の中は甚妙[illegible]

▲地方農作の景況は何所も概して豐作[illegible]りとの通信多し先づ此分なら本年は豐年[illegible]

▲本年は比較的雨量多き爲灌漑の憂な[illegible]韓國の農事には誂向きの天候なりとの事[illegible]

▲地方農事の景況斯の如くなれば人氣[illegible]れも好く殊に南韓地方の景氣は稍挽回せ[illegible]

▲南韓地方に於ける雜貨の賣行頃に增[illegible]せしとの事本秋は一層に好況を呈すべき[illegible]

▲淸國に於て幣制會議を開き銀本位制[illegible]決定せりと淸國の貨幣制度も始て確定せ[illegible]

▲併し銀本位制と確定するに於ては我[illegible]との貿易に對しては多少の影響あるべ[illegible]

▲韓國政府は今回鑛物の輸出稅を免除[illegible]鑛業用器械の輸入稅を免除することゝ[illegible]

▲此輸出入稅免除は鑛業の發展に利す[illegible]所尠からす產業政策として當を得たる[illegible]

●白蓮花（三）

驚愕の夢さへ未だ醒めやらざるに春子は可憐にも若き身にてありながら唯一人此の世の辛苦き世に殘されたり、吁々生者必滅の理りは之れ定めなき人生の常とは云ひながら、まだ夫婦の緣を結びてより間もあらせず、いとし可愛の夫に先立たれ頼りなき身のシミ／＼と一時は深き愁嘆の淵に沈みたりしが、何時迄も斯くありたりとて果しなければ、潔ぎ流るゝ淚の眼を乾きと押し拭ひ頓て心を確かにして獨り考ふるやう我が夫は歷々たる海軍武官の身とて現世の緣は淺くとも、且ツ又夫に連れ添ふ上からは女ながらも亡き後の家名を立派に立つるが妻の義務なり [illegible] んものをとばし首を傾けて思案に暮れ居りしが頓て蛇と頭を擧げ獨り合點の思ひ [illegible] 此の京城に來りしは昨年の師走にてありき、サア當地のある宿屋に旅の草鞋を脱ぎし春子は異境の風物見る物聞くもの一として珍らしからざるはなき [illegible] 宿に閉ぢ籠りて遠く故郷を思ひ又亡き夫の俤を偲びては獨りさめざめと淚に袖を濕すことも屢々なり春子はしばしの間宿屋住ひをなし居りしが金に限りあれば何時迄～何時迄も宿屋に居る譯にも行かず [illegible] なくとも何等かの職業を需めばやと心を [illegible] れば春子は早速其の知人に向つて自分の [illegible] ある知人とさる歷々なる兩班の家に家庭教師が欲しがり居るとのことを耳にし [illegible] て相談纏まりしにより春子は非常に打ち喜び爰に家庭教師として早速兩班の家にと乘込みたり

●花月一杯喰はさる　十數人前の料理が無駄となる

先日統監府の高等官某の代理と稱し花月に向ひ電話を以て明晩七時から新聞記者と民團の或る人達を招く積りだから二十五人前計りの仕度をして藝妓は十名丈用意して呉れとの注文ありしかば同樓にては有難う御座りますと受けしたるに更に間違つてはならぬぞと念を押されたる程なれば同樓にては其日となるや料理用の材料など買ひ入れ二十五人前の料理を拵へ客の入來を待つ計りに準備し置きたるに約束の日の午後五時頃突然電話にて〇〇〇〇官に差支起りたれば宴會は中止されたりとの電話通じ來りしも料理不用となりたるの一顧なれば其儘 [illegible] 統監府のことなれば其儘にも云はず引込んだが又候役所より民長の代理と [illegible] 出し明十七日の晩七時一番と二番の座敷を明け置て呉れ會席は五圓位で藝妓は七八人で好いとの電話ありしかば帳場は熊谷民長さんの宴會ですかと問ひ返へせしに左樣だとの返事に畏まりましたと答へ準備して十七日を待ち居りしに七時半になつても八時になつても一人の客さへ來らぬに不審を抱き熊谷民長に電話を懸けて問合せたるに何も注文したる事なしとの返答に同樓にては狐にでも魅まれた樣にて面見合せて苦笑するより外はなかりしとの投書ありたるが多分何者かの惡戯なる可し

●韓人の詐僞　元宮內府大殿長房掌務白學龍（五十）は本年二月中多くの雜役者と共に解放せられたるものなるが其後一定の職業なく徒食し居たり然るに宮內府大殿院長房軍士名簿に有名無形の金秦山、李乙伊、朴仁石、朴仁植、李泰錫、金軍甫等六名記載しあり本年二月解散まで毎月一人に付二圓宛の月給を取り軍士等にて分配し居たるを機とし此六名に對する慰勞金を宮內府より取戻さんと宮內府の狀況に精通せる軍士金英勳（二月解放）に謀り大殿房中白學龍と同役なりし前 [illegible] 鄭宅基（二月解放）の知る所となり仲間に加へ此に三名は [illegible] 謀に目論見の次第を打明け解放雜役者の慰勞金を下付せしめ七月二十七日宮內府係官を瞞着し學龍は金 [illegible] の者を雇入れ前軍士金泰 [illegible] め金五十圓を鄭宅基は自 [illegible] 軍士李乙伊なりと詐稱せ [illegible] 敏と謀議の上氏名不詳の [illegible] 苑にて雇ひ入れ軍士朴仁 [illegible] 金軍甫の如く詐稱せしめ五十圓乃至七十五圓の慰勞金を騙取し百五十圓を蔡學敏に渡し尙此不正行爲を知れる者共に口止料として渡し殘額八十五圓五十錢を金英勳着服したること發覺し白學龍、金英勳、鄭宅基の三名は旣に捕縛せられたるも賊は行衛不明にて目下嚴探中なりと云

●注文取りの片思　若草町のさる大きな雜貨商に橋邊某といふ廿七八の注文取あり生れはたしか福島縣の三春とか聞きつるが同人は今より四五年前相當な資本を携へて仁川に來り鐵道監部の用達やら軍艦を目當ての沖賣りなどを爲し一時大分に金を儲けたりしもソコが凡夫の淺ましさで儲けもするが使ふのも甚だしくヤレ今夜は敷島明夜は料理屋と殆んど家に居ることゝて其稀なりしが可愛がられて運の盡きトウ／＼仕舞には折角儲けた金をば空しく阿嬌の一顧に消盡するにいたり昨日の榮華は跡なくも夏の夜の短かき夢とは消へ去りにきサテ當時男が深き情を罩め居りし女は其の頃仁川一山樓にて腕と顏とで嬌名を馳せ居りし淸駒といふ藝者なるが女の方でも何うやら男の氣立に惚れ込みシンミリとした差し向ひの座敷などにての女房氣取りのあしらへも全たく商賣氣離れて取り持ちしかば此の突然の男の失敗を耳にしてはそゞろ氣の毒な念を生じ男の爲めならタトヘ年季を增してもサラ／＼苦とは思はずソレも私しゆゑからの失敗と聞いては尙更ら身に耐へ頓で心を定めて此の事を男に相談せしに男は嬉し淚に掻き暮れソレ程迄に私を思つて呉れるとは實は今迄は知らなかツたが併し私も男の端呉れナニ私女の年季なぞは增すに及ばず必ず元々通りの身に立ち歸つて見る積りなれば決して心配は無用にてソレよりは和女こそ稼業大事に勤むるが何によりイヤサ此れ迄の緣はお互に夢と諦め私も此れよりは心を入れ替へて眞面目に働き何れ成効の後又々緣があつたらお目に掛るとフイと其の場を立ち去りたるが後に殘つた淸駒はあたかも取り殘されし片鶉の如く暫時は悲しみの胸一杯に溢れてヨヽと許りに泣き崩れし濡幕の一場は實は昔のことゝはれ榮枯盛衰有爲轉變の譬へは浮沈多き人生には免れず其の後淸駒はある立派な請負師に落籍されて妾も意氣な奧樣に成り濟ませしに引き替へ男の方は未だに何の爲すこともなく一個素寒貧の注文取となり終日眞黑さなりて市中の得意先を廻り居れるも其の實未だに女の事を忘れやらず昔の榮華に憧がれ居るとかソレはソウと近頃は氣候の爲めか甚麼かは知らねどもあまりに當時の女を思ひ詰むるあまり少しく血の廻りが間違はせざるやとの近所の評判を聞くが如し

○俗　鬪　むら

忍ぶ身にや、闇こそよけれ生ひ茂る、千草の上に置く露に、濡るゝも嬉し辻占や、音に鳴く虫の聲とめて、見咎めまじの忍び足、妹が軒端に立ちよれば雲の絶間をあだりんき、憎くや月めがさし覗く、エヽ、させてやりたや、この頰冠り

●遺し文　昨日午後二時頃編輯小僧が出社の際大漢門前に通りかゝると何にやら下駄の齒にさはりしものありしゆゑ拾ひ取りてよく／＼見れば男の筆蹟として左の如き遺し文にてありき

（原文のまゝ）袖引き合ひて紅葉の來る迄待ちはせぬ人が謎をさ掛け見れば馬鹿な男の眼泥りこそ下げて落ろして謎を飛らしヨシ／＼夫れでは少し待で其の時何んとか方法をと甘い言葉も二度三度（中略）其の實陰で舌をペロリと出すやうなこともあるまいが兎も角僕は初めの約束を何處迄も履行可致候につきお前樣の心の中を細々と御記し御返事被下度候人間といふものは相當な年頃になれば身の振り方はつかるものにて一は年頃といふことに重きを置き詳しく御返事あらんことを何れ其の上でお前樣の胸の中をたしかむべく候あらく

●韓軍人の敗北　中署南洞十三統九戶近衞隊參尉車萬轍といふヨボ軍人は四五日前水標橋の或氷水店に這入りて暑さ忘れに氷水一杯とビールをグイグイと續げ飲みに飲みしが懷中は無一物然りとて飲んだものを飲まぬとは頭を以て立つ軍人の腕にも口外すべき事に非ずよし／＼と思案の末案じ出したのがオイコラ金は明日持參するから左樣心得よ宜しいかヘイヘイと頭を下げたるを之れ幸ひ虎口を逃れし心地にて其場は切り上げたり然るに明日も過ぎ明後日も過ぎて最早四日を經過するも持參せざるより此方氷屋は赫と怒り敵陣に討入り遠からん者は音にも聽け近からん者は眼にも見よいざ吾れこそは氷やの主人何某なり金を渡すか命を渡すか一つに二つの返答如何にと聲高々さ駒にはあらぬ足に鞭くれて駈入らんとすれば萬敵の驚き一方ならず不意の襲擊に膽潰れて叩頭再拜ビール代を支拂ひたりとはアイゴチーパリヨ

●惡口吐た吐ぬで亂暴　本町八丁目料理店末益亭事末岡永吉方雇女木下マキ（二十）が一昨日午後九時頃裸体のまゝ本町派出所に駈込み來りたるにぞ詰合の巡査は何事ぞと仔細を訊問せしに同日同亭の雇女が解雇されたるに就てマキが右の女に對し主人の惡口を吐いたと云つて主人の永吉と口論せしが此の時永吉は酒を飲み居りしため嚇と腹を立て亂暴にもマキを捉へて顏面頭部の嫌ひなく毆打せしかば右の通り裸体のまゝ派出所に駈込み訴へ出たることゝ判しかば永吉とマキを本署に同行し取調べの上兩人とも嚴しく說諭を加へ永吉には將來を戒め放還されたり

●小供は如何する　南部倉洞居住李敬煥（四十）同洞金姓女（三十）の兩人が一昨日午後七時三十分頃淸國總領事館門前に於て摑み合ひをなし居る所に巡回の巡査が通り掛り双方を引分け仔細を訊せしに此兩人は內緣の夫婦にて今年三つになる子までなしたる間なるも家計の不如意なるより昨年十月相談の上別るゝことゝなり小供は金姓女が養育するといふことに極りて離別し今日まで何事もなく暮せしも圖らずも一昨日前記の場所にて邂逅したるに金姓女は李に向ひ小供を今日より引取り呉れよといひしに李は之を諾せざるより端しなくも摑み合を初めたる次第なりと明り懇々說諭の上引下らせたり

●九十九の魂膽破れ　新町山遊樓にてヤンチャの九十九と云へば同樓の敷居を跨ぎし者には直ぐ勇木戶や梅ヶ谷を聯想せしむると云ふ代物なるが蓼喰ふ虫も好き／＼の譬の通り九十九が仁川敷島廓淸榮樓に於て淺路と名乘りし頃より血道を上げて通ひ居たりしは仁川の淸水某といふ男なるが此男家には歷とした妻もあり子もあるにも關らず一夜でも九十九の姿を見されば眠られぬと云ふ執心に妻のれ何が淚を流しての意見も空吹く風と聞流し九十九の許に時雨込み居たるにぞ九十九も又憎からず思ひ勤氣離れて接遇し居たるが儘にならぬ世の中とて淸榮樓も世の不景氣には勝てず仁川を疊みて先月當地に引越したり二人の落膽云ふばかりなく殊に九十九は當地に引越して未だ新らしき店のことゝて馴染客も出來ざれば日々の小遣ひにさへ事を缺ぎ嗜の煎豆も喰はれぬ仕儀となりたれば背に腹は替へられず罪深きことゝは思へども色と慾との兩道懸け過ぎし昔の戀しくなりたると又た小遣ひを絞らんと淸水へ宛て日文を以て上京を促せど梨の礫の音沙汰もなければ今は堪らず直々電話にて呼寄せんと大枚二十錢を奮發して電話を懸け有る限りの智慧を絞り出して怨みつらみの程を並べ立淸水の心を蕩かしたれば此に愈々海鼠の如くなつて夫れでは今晚九時迄には是非行くから部屋を空けて待ちて居れとの返事に漸とのことで胸撫で卸し久し振りに小使ひも澤山絞りてやらんと腕に撚かけ待ち居りしにコワ如何したことぞ九時も過ぎ十時も過ぎて早や山も引けたれど淸水の姿はチラとも見へず茲に初めて欺されしかと氣が付た時は既に遲し手線香の焚き損したかエー欺されたか口惜殘念と後は淚に夜を明かしたりとか

●物騷な氷樂町　一昨夜十二時頃氷樂町二丁目氷樂湯の歸りと見受けられた二十年計りの女が出て來たるに納涼みするでもなく今東の山の端に上らんとする月を見る樣子もなければ通り合せた某は不審に思ひ何事をなすか一つ見屆け呉れんと此方の物蔭に潜み覗ひ居たりしに黑地の單衣を着たる男現はれ出で右の女と面見合すや遲かりしと云はん計りに二人打連れて小開き横丁へ這入りたれば某は罪なことゝは知りながら之れも定めて流行の自然主義者の一人なるべしと鳴く虫の音にも心を配り密かに覗ひ寄ればコワ如何に二人相寄り將さに風俗壞亂の所業に及ばんとする所なるにぞ某も燒氣味となりワツと大聲を揚げたるにぞ此方の二人は吃驚仰天し男は暗の中を一目散に走り女も又湯屋の方へと逃げ去りしとは物騷千萬じや

●南山公園の奏樂　明廿三日（日曜日）午後七時より倭城臺にて奏演する陸軍音樂隊の奏樂曲目は左の如し

一行進曲　セダン　永井樂長作
一劇樂　スコットランド　作者不詳
一淸元調　梅の春　軍樂隊作
一俗歌　軍用鞭　同
一行進曲　長谷川將軍　齋藤樂手作

●龍山本願寺の說敎　龍山元町本派本願寺に於ては本日午後八時より鎌田開敎師の說敎ありと云ふ

●南山本願寺說敎　本日は土曜日に付き例の通り午後八時半より說敎あり

●一昨夜の自然主義者　一昨夜新町に迷ひ込んだる自然主義者は南山樓八山遊樓四大榊屋十高島屋五井門支店七第一支店五皆春七第一本店七月下四京城十一淸月六合計六十九人上り高三百八十五圓九十二錢

●安心なめし屋　旭町三丁目角トンボ料理店は材料は新鮮價は安直で家賃や物價の高ひ京城には珍らしき實直屋で飯時にうをんやせんざいではめしには勝てずさりとて淫賣屋とは目的が違ふ一流の料理屋花月や掬翠では野暮な事も出來ずと思案は無駄旭町の蜻蛉へ行けば僅かに五十錢もあれば美味なる和洋料理が喰へて客の注文次第では何品でも出來味の鹽梅も拵へる江戸つ子には持てこいの豫算外支出のなき安心なめし屋で平民俱樂部との評判とり／＼

●歌舞伎座藝題　本晚の替り狂言は「武士的敎育風船の大發明」九にして主なる役割は左の如し

宣敎師ガンドレット、子分馬鹿寅（大山）連れ子花子（桂）後妻道子、令孃富貴子（吉野）陸軍中尉武田省三（山路）陸軍大尉荒川毅（小泉）子爵花園爲紀、公爵人松本正親（酒本）家令野田廣次（北秋）惡漢熊野富藏（杉浦）陸軍大佐樺島輝忠（伊東）

●天氣豫報（自廿一日後六時　至廿二日後六時）

南の風曇但少雨

二十一日午前六時各地氣象概況

令朝遼東半島に一低氣壓顯はれ東進しつゝあり此を以て北部は天氣不良にして其他は晴天の所多し

老妓 茶羅次の身上話(十六)

◎生涯只た一度の貯金

……くざい程申し上げる樣でムいますが女と生れて顏の惡い位損な事はありません殊に藝妓稼業と來ちやア猶更で夫れが爲めに妾なども此れ迄に何度玉の輿に乘り損なつたか知れやしません……橫濱の富貴樓さんがシモタ家になつてからも伊藤(博文)さんは宜く右遊に入らつしやいましたが或日妾もれ聘れ申して何かと御用を承はつて居りますと伊藤さんの右付の方……早くいふと番頭さんですネ其お方が妾を何といふ藝者だか知らなかつたものと見ねまして若し姐さん突然に變な事を聞く樣だが噂の高いたちやらといふ藝妓は定めし美人だらうネつて夫りやア眞面目になつてた聞きなさるのでせう先が眞面目で入らつしやるだけ其れ答には窮りましたネ其噂の御本人樣といふのが現在其方と差し向いになつてるのですから……夫れも今いふ通り美人とまではいかずとも小綺麗な首でも持つて居た事なら夫りやア時と場合、れ聞きの通り素敵な美人で手前が其れちやらでムいますよ何かいつても少しは張合がありますが何しろ餘り拙過ぎる代物ですからソウもいはれで妾も宜は存じませんが何でも美人だつていふ評判ですツて如何やら斯やら其場は胡魔化して仕舞いましたがアー美人には生れたいものだとツク〳〵ツウ思ひましてすよ

夫れなら金でも溜める氣になれば宜いのでムいますが此れが又大の嫌いで取つた金どころか借金をしてまでも貰いたいッていふ性質なんですから手がつけられませんや吉原に居た頃五圓ばかり餘分な金が這りましたので其時分まだ達者で遞信大臣を勤めになつて入らつしやつた後藤(象次郎)さんに妾れ金を預けたいと思つて居るのですけど何處が一番確でムいましようッて伺うと後藤さんは何にれちやらが金を預けると夫りやア遞信省に預けて置くのが一番大丈夫だ日本といふ國が無くならない限りはキット保管して置て呉れるからとれつしやるので早速其の遞信省に預けましてすが夫れでも氣に掛つてならないのでトウ〳〵直ぐ取り戻して仕舞つて後藤さんに散々ばら笑はれた事がムいますが此れが後にも前にもたつた一度の貯金で今だにピー〳〵風車、此歲になつて迄あくせく稼がなけりやアならないとはホト〳〵愛憎の盡た因果な性質ですネ……ヲヤ何だか理に落ちてイヤに陰氣になつちやつた樣ですかられ語は此邊で止さいて一ツ陽氣にと騷ぎ騷がうぢやアありませんかと續けざまに兩三杯を重ねて彼女の面は紅を呈したが浮き足に座を起ち並にちやら物語も一段落を告げた(終)

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月金

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲廣告五號活字十九字詰一行金五十錢▲特別

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城新聞社 京城西署西小門 電話六(一二)番